

# 中国の中学校における学校清掃

—N 市中学校への訪問調査を元に—

表 真 美

(教育学科教授)

中国における学校清掃の現状を明らかにすることを目的とし、2025年2月25日・26日に中国N市の中学校2校を訪問、担任教師に聞き取り調査、資料収集を行うとともに、生徒が学校清掃を行う様子を観察した。中国における学校清掃は、『義務教育労働課程標準(2022年版)』にもとづき義務教育科目として設置された「労働科」を教育的根拠として実施されていた。学校清掃は小学校段階から行われているため、今回訪問した2校では、生徒にとって清掃は当然の活動と受け止められており、掃除のマニュアルではなく、担任教師が入学時に基本的な方法を指導していた。毎日複数回、生徒による学校清掃が行われており、清掃の時間や回数、当番のグループ分けなどは学校による違いがみられた。両校とも、生徒が、清掃が適切に実施されているか、監視を行っていた。監視員による評価は得点化され、学校におけるクラスの表彰や教師の勤務評価にもつながっていた。

キーワード：中国、中学校、学校清掃、労働科

## 1. 研究の背景と目的

### (1) 諸外国の学校清掃

沖原らは、国外での学校清掃の担い手として105か国について調査し、「清掃員型」「清掃員＋生徒型」「生徒型」の3類型を示した(表1)

表1 諸国における学校清掃の担い手

掃除の担い手	国数	主な特徴	国の例
清掃員(業者等)型	61国 58.1%	専門の清掃員・業者が主に掃除を担当し、生徒・教師の関与は少ない	西欧諸国、北米、中南米、オセアニア、北アフリカなど
清掃員＋生徒型	8国 7.6%	清掃員が中心だが、生徒(または教師)が掃除を分担する共存型	旧ソ連・東欧諸国、キューバなど
児童・生徒型	36国 34.3%	主として生徒が掃除を行い、専門清掃員の関与は限定的	日本、韓国、中国、アジア諸国、アフリカの一部諸国など

沖原他(1977)より筆者作成

1)。(沖原他1977)。欧米諸国では、清掃員による清掃が行われており、社会主義諸国では、一部を生徒が実施、そして、中国、韓国、日本を含む東アジア、その他のアジア諸国では、生徒を中心に清掃が行われていた。この調査からすでに50年ほどが経過し、すべての国のその後の詳細は明らかではないが、中国では、児童生徒による清掃がその後も行われていたことが、報告より明らかである。

大竹らは、中国人留学生と日本の大学生への質問紙調査により、中国と日本の小学校における学校清掃の取り組みの相違について報告した(大竹他2015)。その結果、中国では児童生徒による清掃が実施されているものの、毎日行っていた割合は半数であり、大掃除のような特別な清掃を行っていた割合が高かった。日本と同様、トイレや廊下、体育館などの共通の場所も児童生徒が担当していた。日本と異なる点は、教師が指導をしながら児童生徒と一緒に清掃をしていないことだった。この実態からもすでに20年以上が経過しており、現状は明らかではな

い2）。

(2) 中国の学校制度

中国では、中央政府に教育部が置かれ、教育全般を統括、中央政府の各部・委員会（省庁に当たる）は所管業務に関する専門教育を管理している。地方の省・自治区・直轄市及び県・市（区）の各レベルには教育委員会・教育庁・教育局が設けられている。教育部は、教育の基本方針・政策、諸基準を制定し、中央各部委員会及び地方を指導する。初等中等学校の設置、管理指導は地方各レベルの責任とされる。地方各レベルの権限及び責任は、省・自治区・直轄市がそれぞれ決定するが、一般に県レベル政府を主とする設置、維持、管理体制をとっている<sup>3)</sup>。

表2 中国義務教育(小学校・中学校)カリキュラム

	学年									9年の授業時間配
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
国家課程	道徳と法									6~8%
	国語									20~22%
	数学									13~15%
	外国語									6~8%
	歴史・地理									3~4%
	科学 物理・化学・生物									8~10%
	情報技術									1~3%
	体育と健康									10~11%
	芸術									9~11%
	労働									14~18%
総合実践活動										
地方課程	省の教育行政部門が設置									
学校課程	規程によらず学校が設置									
時間/週	26	26	30	30	30	30	34	34	34	
時間/年	910	910	1050	1050	1050	1050	1190	1190	1122	9522

中国教育部『義務教育課程法案(2022年度版)』を元に筆者作成

義務教育は、6~15歳の9年間である。「小学」(小学校)は、一般に6年制である。5年制、9年一貫制も少数存在する。義務教育法には入学年齢は6歳と規定されているが、地域によっては7歳までの入学の遅延が許されている。「初級中学」(中学校:3~4年)卒業後の後期中等教育機関としては、普通教育を行う「高級中学」(高等学校:3年)と職業教育を行う「中等専門学校」(3~5年)、「技工学校」(技術労働者学校、一般に3年)、「職業中学」(2~3年)などがある。なお、職業中学は、前期中等段階(3年)と後期中等段階(2~年)に分かれており、一方の段階の課程しか持たない学校が存在する。

義務教育(小学・初級中学)の設置科目と週最低時間<sup>4)</sup>を表2に示した。

(3) 日本の学校清掃の現状

平成29年告示の小学校学習指導要領では、「特別活動」において、「一人一人のキャリア形成と自己実現」の「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」として、「清掃などの当番活動や係活動等の自己の役割を自覚して協働することの意義を理解し、社会の一員として役割を果たすために必要となることについて主体的に考えて行動すること。」との記述が見られる<sup>5)</sup>。中学校学習指導要領には学校清掃について明記されていない。しかし、文科省が作成した「学校環境衛生管理マニュアル」の「大掃除」の項目には、「清掃については、児童生徒等により日常的に行われるものであるが、定期的の大掃除を行い、日常できない部分まで清掃を行う。」(下線は筆者による)とあり、児童・生徒による学校清掃を自明のこととしている<sup>6)</sup>。

学校清掃は、規律を重んじる児童・生徒への管理教育であり、清掃活動を「心を磨く」といった言葉にすり替えて、労働を児童・生徒に強制しているといった意見がある<sup>7)</sup>。憲法学者の木村草太は対談の中で、学校清掃が「苦役からの自由(憲法18条)」に反する恐れがあると述べている<sup>8)</sup>。さらに、「無言清掃」がマスメディアでとりあげられるようになってから、学校清掃への批判はさらに広がりを見せている。雑誌『教育』では、「黙働掃除」「黙食」を推進する学校を批判する特集記事を掲載した<sup>9)</sup>。山本は「無言清掃」には「子どもの行動を低コストで統制する働き」すなわち「管理」機能と、(黙らせることにより)「注意の方向性を統制し、発見や得心を促す「探求」促進効果がある」と言う。「教育の名の下に児童労働」をさせている国は、「子どもの人権を毀損する活動」について禁止すべき、と述べている<sup>10)</sup>。

(4) 研究目的

日本では、歴史的に児童生徒により行われてきた学校清掃であるが、中学校における教育的位置づけがみられず、数々の批判が顕在化している。一方、1970年代の調査では、中国は、日

本と同じ「生徒型」であり、その後の研究においても、児童生徒が学校清掃を担っていることがわかっているが、先行研究が少なく、詳細な現状は明らかではない。

そこで本研究では、中国への訪問調査により、中国の中学校における学校清掃の実態について明らかにし、今後の日本の学校清掃の在り方についての考察の資料とすることを目的とする。

## 2. 研究方法

2025年2月に中国N市における中学校2校について調査した。

### (1) N市A中学校

2025年2月25日にN市街地に位置するA中学校を訪問、隣接する飲食店において、2年生の担任教師に学校清掃について約1時間聞き取り調査を行うとともに、資料の提示を受けた。

A中学校は、全校生徒約2800人、1クラス約45人。中学1年生は12クラス、2・3年は16クラスであり、学区制の中学校であった。

### (2) N市B小中学校

2025年2月26日、N市郊外に位置するB中学校の2年生のクラスを訪問、教室に併設された準備室において担任教師に学校清掃についての聞き取り調査を行い、資料の提示を受けた。その後、生徒が学校清掃を行う様子を観察した。

B中学校は、新設校である。2022年小学校1年生が入学し現在3年生まで在籍、2023年8月に中学校創立、現在中学1年生・2年生が在籍している。中学1年生は10クラス（1クラス52人）、中学2年生は8クラス（1クラス46、7人）、中学校教師は64人であった。入学試験は課されていないが、小学校段階での成績が一定基準に達していない場合は、入学できない。また成績が上位の生徒40名は「AIコース」と呼ばれる特別課程に所属するとの説明を受けた。

### (3) 学校清掃にかかる資料

聞き取り調査により明らかになった学校清掃に関連する中国教育部による資料は、教育部ホームページから入手した。

## 3. 研究結果

### (1) 中国学校清掃の教育的位置づけ

中国の学校清掃の「教育的根拠」となるものを聞き取り調査した2名の教師に尋ねたところ、「総合実践活動」および「労働」との回答であった。

#### 1) 総合実践活動

「総合実践活動」については、いくつかの先行研究がみられる。中国教育部は2001年、国際化、情報化等を背景に、国民の資質の向上を目指し、創造性のある人材を育成するために、「素質教育」の理念を明示した「基礎教育課程改革綱要（試行）」（原語は「基础教育改革綱要（試行）」）を公布した。この改革は、「児童生徒が主体的に参加し、探求を楽しみ、体を動かす」ことを通して「情報の収集、選択、処理する能力、新しい知識を獲得する能力、問題の分析・解決能力及び交流・協力の能力」の育成を目指すことを目標としており、「総合実践活動」という課程領域が新設された<sup>11)</sup>。

先行研究によると、小学校における総合実践活動の目標は、「周りの自然環境に親しみを持ち、自然を愛し、自然環境を自覚的に保護する意識と能力を育成する」「周りの社会環境を調査して、社会のルールを自覚的に守り、社会とのコミュニケーション能力を高め、社会奉仕の意識と社会的責任感を育成する」「生活上の基本的な技能を身につけ、良好な生活習慣を形成し、自己認識能力を高め、勤勉で積極的な生活態度を育成する」「好奇心と知識欲を喚起し、探究活動に参加する態度と問題探究の初歩的能力を育成する」とされ、一部で「社会奉仕の意識と社会的責任観」や「生活上の基本的な技能」など、目標に清掃とつながる内容が含まれていた<sup>12)</sup>。

#### 2) 労働科

一方「労働」は、「総合実践活動」から労働に関する内容が独立、2022年からカリキュラムに導入された新教科である。国の教育部による『義務教育課程方策（2022年度版）』に明記され、総合実践活動、地方課程、学校課程と合わせて14～18%の時間配分とされている（表2）<sup>13)</sup>。

日本の学習指導要領にあたる『義務教育労働

課程標準（2022年度版）』には、コアカリキュラムの内容項目として、労働概念、労働能力、労働習慣と資質、労働精神の4項目が示されている<sup>14)</sup>。教科の目標は①基本的な労働意識を養い、正しい労働概念を確立する。②基本的な計画力を発達させ、必須の労働能力を習得する。③良好な労働習慣を身に付け、基本的な労働資質を養う。④積極的な労働倫理を養い、模範的な労働者と職人の精神を促進する、とあった。さらに、学年段階（1～2年生、3～4年生、5～6年生、7～9年生）ごとに目標が定められている<sup>15)</sup>。

内容項目は「日常生活労働」「生産労働」「サービス労働」の3項目が設けられ、各項目においてさらに項目が立てられており、教えられる学年段階が定められていた（表3）<sup>16)</sup>。

学校清掃に関連する「日常生活労働」は、「清潔と衛生」「整理と保管」「料理と栄養」「家庭用電化製品の使用とメンテナンス」に分かれていた。「清潔と労働」は1～4年生、「整理と保管」は1～9年生に設定されていた<sup>17)</sup>。

表3 労働科内容構造の概要

日常生活労働	清掃と衛生				
	整理と保管				
	料理と栄養				
	家庭用電化製品の使用とメンテナンス				
生産労働	農業生産労働				
	伝統工芸品の製作				
	工業生産労働				
	新しいテクノロジーの経験と応用				
サービス労働	現代のサービス産業の労働力				
	厚生労働・ボランティア労働				

『義務教育労働課程標準（2022年度版）』p.12より筆者作成

### 3)「清掃と衛生」「整頓と保管」の内容<sup>18)</sup>

『義務教育労働課程標準（2022年版）』のカリキュラム内容は、「学習内容」「要求される能力」「活動の提案」の3項目で構成されていた。1～4年生に設定されている「清掃と衛生」（表4）は、「清掃」と「洗濯」「衛生」の内容を含んでいた。いずれも、学校と家庭両方の場が設定され、清掃に関して、基本的な道具や方法について、1～2「ホウキで掃く、モップで拭く、雑

巾で机や椅子を拭く」、3～4年生では「清掃道具を正しく使用する」「机や椅子をきれいに整える」など、具体的で詳細な記述がみられた。活

表4 「清掃と衛生」のカリキュラム内容

学年段階	カリキュラム内容
1～2年生	学習内容 ほうきで掃く、モップで拭く、雑巾でテーブルと椅子を拭く、適切な洗剤で食器や調理器具を洗う、赤いスカーフを石鹸と洗濯洗剤で洗うなど、簡単な清掃作業を行う。色や文字の指示に基づいて様々な種類のゴミ箱を識別し、ゴミの分別の要件を理解する。科学的な方法を用いて手洗いを徹底し、個人衛生に関する作業を自主的に完了する。
	要求される能力 床の掃き掃除や小さな衣類の洗濯などの簡単な作業方法を習得し、個人衛生に注意を払う意識と習慣を身につける。ゴミを捨てない習慣を身につけ、ゴミの分別と公衆衛生の維持に関する意識をまず確立する。床、衣類、テーブル、椅子を掃除する際に、労働の喜びを体験し、労働に参加する意欲を持つ。
	活動の提案 清掃活動中は、生徒は床を掃き、雑巾を洗い、机と椅子を拭くように指導される。清掃活動の後は、生徒同士が学び合い、経験を共有・評価し、学んだことをまとめ、基本的な清掃スキルを習得する。「洗濯の達人」や「誰の手が一番きれい？」といった活動を通して、明るく衛生的な教室の雰囲気を作られる。
	学習内容 日常の清掃と衛生の基本を理解する。適切な洗剤を使って靴、靴下、下着、ランドセルを洗う。清掃用具を正しく使用する。教室の清掃に参加し、机や椅子をきれいに整える。ゴミを適切に分類して処分する。消毒用ウェットティッシュ、コットンボール、ハンドソープを正しく使用する。公共の場では、意識的に个人防护を徹底できる。清掃、整理整頓、消毒などの活動を通して、清潔な生活・学習環境を作る。
3～4年生	要求される能力 簡単な衛生用具や日常的な消毒用品を正しく使用できる。個人用保護具の清掃と維持管理能力を有する。労働を通して清潔な生活・学習環境を創造するという意識、公衆衛生と安全に対する意識を持ち、良好な個人衛生習慣を身につけ、労働への愛着を持ち、労働において他者と協力することを学び始めている。
	活動の提案 保護者の指導の下、生徒は自分の靴、靴下、通学用カバンを洗う練習をし、様々な方法で作業過程と結果をクラスで披露し、共有し、話し合うことができる。教室の清掃活動では、生徒はドア、窓、壁の埃払い、机や椅子の掃除と整理整頓などの作業を行うことができる。生徒が教室の清掃当番を通して、学校の清掃と衛生管理に継続的に参加するよう指導する必要がある。保護者は協力して、生徒が家庭でも積極的に衛生管理に取り組むよう指導する必要がある。

『義務教育労働課程標準（2022年度版）』pp.13～27より筆者作成

中国の中学校における学校清掃

表 5 「整理と整頓」のカリキュラム内容

学年段階	カリキュラム内容
1～2 年生	学習内容 生徒は、衣類、おもちゃ、本、文房具などの私物や学用品を整理する必要がある。また、通学カバン、机、教室の本棚や机を整理し、種類や形に応じてきちんと並べ、適切なタイミングで整理整頓を行うための基本的な意識を養う必要がある。
	要求される能力 生徒はまず、簡単な整理整頓の基本的な方法を習得し、適切なタイミングで整理整頓を行う習慣を身につけ、自分の持ち物や学用品を管理する能力を身につけ、労働の苦勞と喜びを理解し始める。
	活動の提案 このグループワークは、家庭と学校が連携して実施する。机の上に学用品をきちんと並べたり、通学カバンの中の文房具や本を整理したりするなど、活動を通して、生徒が整理整頓の基本的な方法を習得できるよう指導する。保護者は、生徒が家庭で整理整頓を実践し、その習慣を長期にわたって維持できるよう、監督・奨励する。生徒の参加を促すため、実演、交流、報告会などを行う。
	学習内容 リビングルームの本棚、衣類収納、靴箱、教室の「ブックコーナー」、浴室のキャビネット、教卓などを定期的に整理整頓する。物品を整然と配置し、分類収納を行い、秩序性と合理性を保ちながら取り出しやすい状態にする。
3～4 年生	要求される能力 生徒は、生活環境や教室における物品の整理整頓の方法を習得し、適切なタイミングでの整理整頓が生活環境や学習環境を美しく整えることを理解し、働くことへの愛着を育み始める。適切なタイミングでの整理整頓や物品の分類といった良い習慣を徐々に身につけていく。物事を組織的にを行い、体系的に整理整頓し、定期的に片付ける能力を身につけていく。
	活動の提案 品目の量、作業範囲、活動の要件という3つの側面に基づいて活動を計画する。例えば、学習用品の整理から始めて、次に生活用品の整理へと進む。引き出し1つの整理から全体の整理へ、きちんと整理されたから段階から、合理的に保管され、取り出しやすい段階へと進む。難易度を徐々に上げていくことで、生徒の整理と収納スキルを徐々に向上させる。
	学習内容 整理整頓と廃棄を通して、生徒は学習スペースと生活スペースを整理整頓する。例えば、使用済みの教科書、ノート、着なくなった衣類、遊ばなくなったおもちゃなどを掃除し、適切に処分する。生徒は、持ち物や生活空間の整理整頓と清掃の方法について基本的な理解を身につけ、家庭空間を合理的かつ最大限に活用し、労働と創意工夫を通して、自分自身と家族にとってより快適な生活環境を創造する。
	要求される能力 生徒は、優れた整理整頓能力を発揮し、根拠に基づいて物品を整理・廃棄する方法を理解し、学習環境と生活環境における適切なタイミングでの整理、清掃、病原菌の除去の重要性を認識する。より良い生活を築く上での労働の重要性を理解し、労働と家事管理能力のための基本的な計画スキルを身につける。
5～6 年生	活動の提案 生徒は、作業に着手する前に、自分の生活空間における物品の必要性和占有スペースを評価し、それに応じて作業計画を立て、解決策を検討する。整理整頓は、必要性、適切性、清潔さといった一定の基準に基づいて行う必要がある。物品や環境の整理整頓や清掃を行う際には、不適切な操作による危害を避けるため、消毒液の希釈率や消毒時の個人用保護具の適切な使用など、安全と手順の遵守に注意を払う必要がある。
	学習内容 整理と収納の方法を柔軟に活用し、家庭内の各居室や教室内部の物品を全体的に整える。他者と協力して、リビングルームや教室の装飾や装飾、個性的なデザイン、そして使いやすい環境づくりを行う。収納ボックスの整理、旅行用スーツケースの整理整頓、衣服や日用品の準備などの課題を自主的にこなす。
	要求される能力 確かな独創的な解決策を用いて居室を美しく整えるスキル、計画の論理的な実行、安全な作業、実践的能力、自己管理能力を要求する。人間の行動、集団生活の意義、豊かな生活の原則、そしてスポーツと生活の質の真の意味を理解する。
	活動の提案 スーツケースの整理などは、学校の社会科実習や校外学習と組み合わせたり、様々な目的地の設定、目的地間の連携調整、そして生徒が現在通う学校のモデルと組み合わせた実地実習などと組み合わせることができる。また、教室や居室の整理・美化については、まず、教室のレイアウト案を募集し、優れた案を選んで実施する。
7～9 年生	学習内容 整理と収納の方法を柔軟に活用し、家庭内の各居室や教室内部の物品を全体的に整える。他者と協力して、リビングルームや教室の装飾や装飾、個性的なデザイン、そして使いやすい環境づくりを行う。収納ボックスの整理、旅行用スーツケースの整理整頓、衣服や日用品の準備などの課題を自主的にこなす。
	要求される能力 確かな独創的な解決策を用いて居室を美しく整えるスキル、計画の論理的な実行、安全な作業、実践的能力、自己管理能力を要求する。人間の行動、集団生活の意義、豊かな生活の原則、そしてスポーツと生活の質の真の意味を理解する。
	活動の提案 スーツケースの整理などは、学校の社会科実習や校外学習と組み合わせたり、様々な目的地の設定、目的地間の連携調整、そして生徒が現在通う学校のモデルと組み合わせた実地実習などと組み合わせることができる。また、教室や居室の整理・美化については、まず、教室のレイアウト案を募集し、優れた案を選んで実施する。
	学習内容 整理と収納の方法を柔軟に活用し、家庭内の各居室や教室内部の物品を全体的に整える。他者と協力して、リビングルームや教室の装飾や装飾、個性的なデザイン、そして使いやすい環境づくりを行う。収納ボックスの整理、旅行用スーツケースの整理整頓、衣服や日用品の準備などの課題を自主的にこなす。

『義務教育労働課程標準(2022年度版)』pp.13～27より筆者作成

動の提案では、清掃の指導や教室の清掃活動、保護者との連携も明記されていた（表4）。

「整理と保管」は、1年生から9年生までの設定であった（表5）。「整理と保管」においても、具体的、詳細に内容が明記されていた。1・2年生では、「机、教室の本棚や机」、3・4年生は「リビングルームの本棚、衣類収納、靴箱、教室の「ブックコーナー」、浴室のキャビネット、教卓」、5・6年生は「学習スペースと生活スペース」、7・8・9年生は「家庭内の各居室や教室内部の物品を全体的」と、整理の対象がステップアップしている。能力も「自分の持ち物や学用品を管理する能力」「物事を組織的にを行い、体系的に整理整頓し、定期的に片付ける能力」「労働と家事管理能力のための基本的な計画スキル」計画の論理的な実行、安全な作業、実践的能力、自己管理能力」と徐々に要求水準が上がっていた。「清掃と衛生」同様、実践の場は学校と家庭であり、「家庭との連携」が明記されていた。

#### 4) 日本の小学校学習指導要領「家庭」との比較

中国労働科は、学校清掃だけでなく、家庭での清掃についても内容に含んでいた。日本においては、前述のように、小学校学習指導要領の「特別活動」に「学校清掃」、さらに家庭の清掃については、家庭科に「整理・整頓、清掃」の内容が見られる。

平成29年告示小学校学習指導要領「家庭」には、「B衣食住の生活」の中に「住まいの整理・整頓や清掃の仕方を考え、快適な住まい方を工夫すること。」との内容が含まれている<sup>19)</sup>。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説家庭編』（表6）には、実践例について「教室や家庭科室の机や引き出し、棚やロッカー」とあり、中国の『労働課程標準』と類似した実践の対象となっている。

一方、日本の『小学校学習指導要領家庭科編解説』には、「なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせる」「汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方」「整理・整頓の必要性」など、科学的、論理的な指導が指示されている。

さらに、「和室の畳の清掃の仕方にも触れ、日本の生活文化に気付く」とあり、文化的側面にも言及していることは、中国の労働課程標準と異なる点である。

表6 学習指導要領解説家庭編「整理整頓・清掃」

<p>住まいの清掃の仕方については、児童が日常よく使う場所を取り上げる。学校や家庭での体験を基に清掃について見直し、なぜ汚れるのか、何のために清掃するのかを考えさせるとともに、床や窓などの汚れの種類、汚れ方に応じた清掃の仕方が分かり、状況に応じた清掃の仕方を理解し、適切にできるようにする。また、汚れは時間が経つと落ちにくくなることや、住居用洗剤は取り扱い方によって危険を伴うものもあるため、表示をよく見て使用する必要があることなどにも気付くようにする。さらに、和室の畳の清掃の仕方にも触れ、日本の生活文化に気付くことができるようにする。</p> <p>指導に当たっては、整理・整頓や清掃の仕方は家庭によって異なることから、児童の家庭での様々な工夫について交流する活動を通して、指導事項における活動に生かすことができるよう配慮する。その際、家族の生活に合わせて整理・整頓の仕方を工夫し、清掃などを適切にすることによって、家族が楽しく快適に過ごすことができることに気付くようにする。また、「家庭生活と仕事」の学習との関連を図り、実践する喜びや家族との関わりを感じながら学習を進めるよう配慮する。さらに、適切な整理・整頓や清掃は、家庭内の事故を防ぐための安全な住まい方を考える上でも大切であることに気付かせるなど、中学校での学習につながるよう配慮する。</p> <p>例えば、整理・整頓については、散らかっている部屋の写真から整理・整頓の必要性について話し合ったり、教室や家庭科室の机や引き出し、棚やロッカーなどで試行することを通して、整理・整頓の多様な視点に気付かせたりする活動などが考えられる。清掃については、学校内での汚れ調べの活動などを通して、汚れの種類や汚れ方に応じた清掃の仕方を考えたり、ほうき、電気掃除機、化学雑巾などによる清掃の効果を比較し、適切な使い分けについて考えたりする活動などが考えられる</p>
--

『小学校学習指導要領（29年告示）解説家庭編』より筆者作成

#### (2)A 中学校における聞き取り調査結果

##### 1) 生徒による清掃

2 時間目終了時の「活動（走る、体操など）」前に5分、5時間目終了後に5分、授業後に20分、当番の生徒が清掃する。毎日、ほうき、モップ、雑巾などを使って教室全体を清掃する。5班に分かれて一日ごとに当番となる。当番ではない生徒は、自分の周りを掃除する。

監視委員の生徒がきれいかどうかを検査する。委員の生徒はクラスに一人で責任感がある生徒

表 7 教師による点検表

2025年2月24日 星期一						
班级	得分	大课间教学楼扣分原因	大课间操场扣分原因	眼操扣分原因(标注上午还是下午眼操)	午餐扣分原因	午休扣分原因
		休憩時間・教室内	休憩時間・遊び場	目の体操減点理由	昼食の減点理由	昼休みの減点理由
初二(1)	24					
初二(2)	24					
初二(3)	23	教室前门有纸团				
初二(4)	24	教室の正面入口に				
初二(5)	24	紙のボールがある				
初二(6)	24					
初二(7)	24					
初二(8)	24					
初二(9)	23		进场不整齐			
初二(10)	24		乱雑で整			
初二(11)	24		頓されて			
初二(12)	24		いない			
初二(13)	24					
初二(14)	24					
初二(15)	24					
初二(16)	24					

教師より提供された表に、筆者が日本語訳を加筆(左から2列目の数字は得点)

を担任教師が選び、学年主任が確認する。委員の仕事は1年間続く。

担任教師が入学時に清掃の仕方を教えるが、マニュアルはない。小学校で実施しているので、生徒は当然のことと思っている。保護者・教師も学校清掃を当然のことと捉えている。

## 2) 点検評価

担任教師は清掃中指導を行い、生徒がまじめに取り組んでいなければ注意する。監視委員の生徒が点検する前に担任教師が点検し、表に付ける。学校清掃の評価点をつけるのは委員であり、評価点が優秀なクラスは受賞し、ペナントをもらえる。ペナントが複数になるとさらに称号を得る。

監視委員の生徒による評価は①学校清掃に加え、②紅領巾(赤いスカーフ)をつけているかどうか、③目の体操をきちんと行っているか、④活動時間、適切に活動しているか、⑤給食を静かに食べているか(準備した人から食べ始める、15分くらい)、⑥ゴミ箱のごみがきちんと捨てられているかの6点である。

クラスの点数が悪いと、担任教師が管理職に注意をうける。優秀なクラスの担任教師は、査定が上がり昇級する。多くの担任教師は、清掃することは必要だが、点検の方法が厳しすぎると感じていると思う。

## 3) 学校清掃について

学校の中の環境を整えるのはとても重要なこ

とである。現在の学校清掃は、生徒による点検は厳しいが圧力は低い。歴史的には、学校の周辺や、教室以外の共通の場所も生徒が清掃していたが、今は教室と教室に近い廊下だけであり、そのほかは清掃員が行っている。

## 4) 教師による点検表(表7)

A 中学校教師より提供された訪問前日の教師による点検表を見ると、休憩時間の教室内、遊び場の整理整頓状況、目の体操、昼食、お昼休みの活動について、減点法で点検されていることがわかる。

## (3) B 中学校における聞き取り調査結果

### 1) 学校生活

午前中は4時間目まで、午後は5時間目から7時間目まで、8時から午後4時半、延長課程に参加する生徒は午後6時まで授業がある。延長課程は希望者による自習であり、質問があれば先生に尋ねる。午前と午後、2時間目終了後、6時間目終了後に「活動時間」がある。

午前の4時間目始まる前、午後は6時間目始まる前5分に1日2回音楽に合わせて目の体操「目保健操」を行う(訪問時は3名のクラスの委員が「目保健操」の点検をしていた)。

### 2) 生徒による清掃

朝、1時間目前(5分~10分)、昼食(食堂)が終わって教室に戻った後(5分~10分)、延長課程終了後(5分~10分)に清掃する。クラスの状況によって、担任教師は生徒の

自主性に任せている。目の体操と異なる当番が皆の清掃の様子を監視する。監視員は1年間通して清掃の監視をする。

生徒は6名ずつの班に分かれて月曜から金曜まで交代で清掃を行う。女子3名、男子3名のグループに分かれ、女子は箒を使って床清掃、男子はモップがけを主に担当するよう指導していた。この方法は担任教師の判断によるもので、他のクラスは異なる。

学校清掃は德育主幹が管理する、「労働」を担当する教師が德育主幹になる。毎年労働技能競争活動があり、それに生徒が参加する。道具の使い方、清掃場所等清掃の方法は、担任教師と、労働の教師が指導している。マニュアルは一般的にはなく、この学校にもないが、マニュアルを作成している学校もある。小学校から実践しているので生徒は慣れている。学年最初は教師が指導するが、それ以降は生徒が自主的に清掃を行う。

当該教師のクラスは他のクラスと合同して2クラスで運動場の清掃を担当している。毎日当番の生徒が昼に実施している。

### 3) 学校清掃の評価、指導

学校清掃の評価点をつけるのは委員である。担任教師は、まじめに清掃しない生徒と相談して、問題を指摘し、改善する。まじめに清掃している生徒を教師は褒める。学生の労働の責任感には積極性を促すと感じている。

評価は、①床にゴミがない、②椅子と机が整えられている、③机がきれいかなどを基準としている。学校によって、清掃の管理方法が違うが、おおよそ同じと思う。

### 4) 点検評価

清掃の点検は「目保健操」と同じ3名の女子生徒が毎日点検する。その他の各種活動についても毎日行い、4、5回点検を行うことになる。1名の委員の生徒が点数をつけ、得点の表を委員が德育主幹に提出し、德育の教師（德育主幹）が管理する。①清掃、②目の体操、③紅領巾、服装がきちんとしているか、④活動時間（体操）に適切に活動しているかについて評価する。体操とジョギングは朝の活動時間、午後

の活動時間はバスケや卓球とか生徒がやりたいことをしている。

点数が低いと担任教師は德育主幹から注意を受ける。優秀になると「文明クラス」として赤い旗をもらう。優秀の称号が得られる。

### 5) その他、教師自身の清掃に対する意識など

中国でどの様に学校清掃が始まったか、具体的な時期はわからない。地域や学校により清掃方法は異なるが、生徒の責任感や労働意識を養成するために、学校内の清掃は生徒が必ず行っている。現在の教育の中で、学校清掃は学校の日常の管理の一部になっている。教育改革に従って、学校清掃の形式と内容は発展している。

生徒と保護者の反応については、多くの生徒は自分の責任感を養成する機会と思っているが、一部の生徒は清掃の仕事はつまらないと思っている。多くの保護者は、学校清掃は自分の子どもの労働意識と自立能力を養成に役立つ活動と思っているが、清掃は学習時間を減らすと批判する保護者もいる。大部分の生徒は、友人と協力する、能力をあげるというポジティブな見方をし、清掃を良いことと捉えており、保護者もそれを認めている。社会全体にもよいことと捉えられていると思う。

教師自身は、成績だけでなく、他の方面も重要であり、学校清掃は教育効果があると考えている。学生の労働意識、自立を養成するのに役立っている、生徒自身の労働成果とともに、他の人の労働成果も尊重している。外部に適応する能力、圧力に打ち勝つ能力を増す役割があると考えている。学校は、生徒の全面的な発展のための、引き続き清掃の仕事に力を入れるべきだと思う。

### (4) B 中学校における生徒による学校清掃の観察

訪問した B 中学校では、教室に隣接する準備室に水道があり、ほうき、モップなどの清掃用具が保管されていた。訪問時当日は、就業中の短い時間での学校清掃を観察した。当番数名が清掃を行っており、積極的に清掃に取り組んでいた。ほうきで掃いてゴミを集めたり、モップで机の合間を拭いたりしていた。観察した清掃は、生徒が全員教室にいる状況で、椅子を机に



図 1 N 市 B 中学校における学校清掃の様子(担任教師提供)

あげる机の移動はなかったため、丁寧に行われている感はなかったが、ゴミがたくさん集まっていた。担任教師からは、就業後の学校清掃の写真 6 枚の提供を受けた(図 1, 写真に関しては、教師から論文掲載の許可を得た)。椅子を机の上にあげて、机の下などもほうきで掃いたり、モップで拭いて、丁寧に清掃を行っている様子が見て取れる。

#### 4. 考察

中国では、現在も生徒による清掃が行われていた。義務教育の必修教科「労働」にその教育的根拠を置いており、日本の小学校学習指導要領「特別活動」と類似していた。しかし、中国労働科では、労働実践の場を学校だけでなく家庭も含めていた。中国と日本の家庭科とを比較すると、家庭科では、清掃や整理整頓の科学的根拠や生活文化としての側面についても学習することが指示されており、より深い学びが求められていることがわかる。

中国では、生徒による学校清掃が、1 日数回行われており、監視委員がほかの指標と共に点数化してクラスの表彰や教員の評価にも結び付くなど、管理体制の中で厳格に実施されていた。

これは、中国の教育における評価と管理を重視する傾向が、清掃活動にも反映されているためと考えられる。日本では、無言清掃など、一部の熱心な指導だけでなく、学校清掃自体を「児童労働」と捉えての批判がある。特に中学校では、明確な教育的根拠がないことも批判の理由の一つと考えられる。一方で、学校清掃を含めた「規律」を重んじる教育を教育目標に含む学校も多くみられ、それを肯定する社会の声も少なくない<sup>20)</sup>。中国でも一部の保護者や生徒からの反発があるものの、概ね社会全体が学校清掃を認めていた。国の教育体制の違いはあるものの、今後の日本における学校清掃の在り方について考えるにあたり、今回の研究結果も資料の 1 つになりうるだろう。

#### 5. まとめと今後の課題

中国における学校清掃は、義務教育科目である「総合実践活動」、および中華民国教育部による『義務教育労働課程標準(2022年版)』にもとづき義務教育科目として設置された「労働科」に教育的根拠をもっていた。

「労働科」における「日常生活労働」「生産労働」「サービス性労働」の 3 つの内容のうち、

「日常生活労働」には、「清掃と衛生」「整理と収納」「調理と栄養」「家庭用器具の使用とメンテナンス」の4項目が含まれていた。「清掃と衛生」は1年生から4年生、「整理と収納」は1年生から9年生まで設置されていた。

訪問した2つの中学校における学校清掃は、小学校においても行われているため、両校とも、生徒は当然のことと考え、清掃のマニュアルではなく、担任教師が入学時に指導していた。

両校では毎日複数回生徒による学校清掃が行われていた。清掃の時間や回数、当番のグループ分けなどは学校による違いがみられたが、先生は生徒がまじめに取り組むよう、指導を行っていた。

両校とも、生徒による監視員が、清掃が着実に行われているのか、評価を行っていた。監視員による評価は清掃とともに、「目の体操」「活動」「紅領巾の着装」なども対象となり、得点によって学校におけるクラスの表彰や教師の勤務評価にもつながっていた。

訪問したB中学校では、教室に隣接する準備室に水道があり、ほうき、モップなどの清掃用具が保管されていた。当日の就業中の生徒による当番の生徒が清掃を行っていた。観察した清掃は、机やいすの移動などはなかったため、丁寧に行われている感はなかったが、ゴミがたくさん集まっていた。

今後の課題として、中国における学校清掃の歴史的変遷や、労働科教科書の具体的内容の分析を進める必要がある。また、中国以外の国々における学校清掃の現状についても調査を拡張し、国際比較を行うことが求められる。

#### 文献

- 1) 沖原他 1977「各国の学校掃除に関する比較研究」『日本比較教育学会紀要』3, 37-46
- 2) 大竹美登利・全瑛 (2016)「日本と中国の小学校における掃除の取り組みの実態と相違」『東京学芸大学紀要総合教育科学系Ⅱ』67, 291-301
- 3)『諸外国の教育統計令和5(2022)年度版』1.1.1.6 中国 (2022), 明石書店
- 4) 中華人民共和国教育部 (2022)『义务教育课程

- 設置方案 (2022年度版)』, 9
- <http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/202204/W020220420582343217634.pdf>  
(2025年12月10日閲覧)
- 5) 文部科学省(2017)「第6章特別活動」『小学校学習指導要領』, 184
- 6) 文部科学省 (2018)『学校環境衛生管理マニュアル 学校衛生基準の理論と実践 平成30年度改訂版』, 10
- 7) 杉原里美 (2019)『掃除で心は磨けるのか 今学校で起きている奇妙なこと』筑摩書房
- 8) ハフポスト HP「「運動会の巨大ピラミッドに拍手する日本人の人権意識はおかしい」 健保学者・木村草太さんに聞く“子どもの守り方” (2019年1月19日配信, 2025年12月10日閲覧)  
[https://www.huffingtonpost.jp/2019/01/16/sota-kimura-interview\\_a\\_23643888/](https://www.huffingtonpost.jp/2019/01/16/sota-kimura-interview_a_23643888/)
- 9) 教育科学研究会 (2019)「特集2 学校に忍び込む「黙」」『教育』887, 59-91
- 10) 山本宏樹 (2019)「無言清掃はどこからきたのか」教育科学研究会『教育』887, 82-91
- 11) 周珏. 中国における「総合実践活動」のカリキュラム構造と実践の分析と考察—上海市海棠小学校の実践事例を中心に—. 国際教育. 2019, 25, 18-35.
- 12) 魏曉敏, 貴志倫子. 「総合実践活動」の教科書分析から見た中国の小学校における家政教育. 福岡教育大学紀要. 2014, 63, 第5分冊, 181-189.
- 13) 中華人民共和国 (2022)『义务教育劳动课程标准 (2022年版)』, 4-5
- 14) 前掲書 4,
- 15) 前掲書 13, 6-10
- 16) 前掲書 13, 12
- 17) 前掲書 13, 12
- 18) 前掲書 13, 13-27
- 19) 文部科学省 (2017)「第8章家庭」『小学校学習指導要領 (平成29年告示)』, 138
- 20) 文部科学省 (2017)『学習指導要領 (平成29年告示) 解説家庭編』61-62
- 21) 表真美「学校清掃の実態と実施者の意識—全国の18歳から70歳代までの600名, および兵庫県の小学生80名を対象としたアンケートを元

にー」『京都女子大学発達教育学部紀要』22（現在  
投稿中）

#### 謝辞

本研究の調査にご協力頂いた N 市 A 中学校，  
および B 中学校の各先生方，清掃活動を観察さ  
せて下さった B 中学校の生徒の皆さんに厚く感  
謝します。また，N 市での中学校訪問に同行，  
聞き取り調査の通訳などに協力頂いた京都女子  
大学大学院発達教育学研究科博士前期課程在学  
の陳斯曼氏，黄秋煜氏，また，中国語の監修で  
ご協力頂いた同，高晨氏に深く御礼申し上げま  
す。

#### 付記

本研究は，科学研究費（基盤研究（c）  
22K0219「学校清掃の社会文化的背景と教育  
効果」）を受けて行ったものである